

施策	24	家庭教育の充実	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり		
施策主管課	公民館	課長名	木下巨一	内線	4210	政策担当部長名	教育次長 三浦伸一
施策関係課名	生涯学習・スポーツ課、中央図書館、学校教育課、福祉課、子育て支援課、保健課						
重点施策	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画					

1 施策の目的

目的	対象	子ども及びその家庭
	意図	基本的なしつけができる 公共心、社会性が育つ 親子のコミュニケーションが図られる

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み 28年度
子育てをしている家庭 (0歳～18歳までの子どもがいる世帯とする) <small>*37施策の対象と同一。年度末時点から9/30時点に修正。 24年度から外国人家庭を含む。</small>	戸	10,577 40,576	10,481 40,467	10,311 40,294	10,503 40,399	10,361 40,206	10,178	9,900
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標 28年度
成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
基本的な生活習慣を習得している子どもの割合	%	48.5	52.9	53.1	56.6	57.5	56.9	55
地域行事・地域活動に親子で参加している割合	%	42.3	46.2	55	55.2	56.4	50.8	50
子どもとコミュニケーションがとれている世帯の割合	%	96.0	95.9	96.1	96.4	94.7	96.2	95

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	26年度	目標 28年度	
行政	市(国・県) 子どもに基本的な生活習慣を習得させるための親の家庭教育の支援 子どもの社会性獲得のための青少年健全育成事業の推進	家庭教育に関する学級講座開催回数(公民館の家庭教育の講座、図書館の乳幼児読み聞かせ)	280	263	243	253	300	
		健全育成事業の開催回数(生涯学習・スポーツ課の主催事業)	26	20	19	11	25	
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項					
市民等	親	子どもに基本的な生活習慣を身につけさせる。親子のコミュニケーションを図る。	基本的な生活習慣を習得している子どもの割合(学校を通じた生活アンケートで把握) 親子のコミュニケーションがとれている世帯の割合(意識調査設問26のデータで代替把握(団体の認識が大事))	健全育成事業の開催数の減少は、生涯学習・スポーツ課が主催していた「子育てパワーアップ講座」(5回)を飯田市公民館に移管し、家庭教育に関する講座に勘定したことによる。				
	個人、各種団体	地域で子育てを支える。	意識調査設問19 子育て・PTA・青少年育成活動に参加している市民の割合					

3 平成26年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

・市内すべての小学校の1年から6年生を対象(1学年に複数クラスのある学校は1クラスを抽出)として実施している「基本的生活習慣を習得している子どもの割合」は56.9%と、平成21年度の48.5%に比べると大幅に増加している。また、市民アンケートのうち「子どもとのコミュニケーションの取れている家庭の割合」も96.2%と平成24年度に次ぐ高水準を維持している。このことから、家庭における子どもに対するしつけやコミュニケーションは一定の成果を上げており、これは「我が家の結いタイム」等の取組などの成果が根付いていることによるものと考えられている。

・一方地域行事・地域活動に親子で参加している割合は、平成23年度以降では一番低い数値であるが、行事や活動機会数は大きな変動がないことから、地域行事や地域活動により親子で参加しやすくなるような告知や声掛けなどを進めるような取組が課題である。なお、平成26年度「全国学力・学習状況調査」の中で、児童生徒の地域への関わりについての設問では、地域行事へ参加する生徒の割合は小学生が91.8%(全国平均68%)、中学生が66.5%(全国平均43.4%)と飯田の児童生徒の参加率は圧倒的に大きいことがわかる。これは地域ごとに設置された公民館などを拠点とした地域の活動が、子どもたちと地域との厚い関係性づくりに結び付いていることによるものと考えられる。

【事務事業群テーマ別の評価】

< 親の意識づくり >

・家庭教育推進事業のうち、昨年度まで生涯学習・スポーツ課が主管していた「子育てパワーアップ講座」は、飯田市公民館に移管するとともに、平成25年度に包括協定を結んで飯田女子短期大学と連携した「いいだ子育てカレッジ」として新たな内容の講座として開催した。父親層の意識づくりに焦点化した事業としたことから参加者数は減少したが、地域の高等教育機関の知見を活かした講座として、事業内容の改革改善を進めていきたい。

・初めまして絵本事業では48回実施、7か月児相談の際に864人の乳児に絵本の読み聞かせと1冊の絵本のプレゼントを行い、また、45回実施した2歳児検診の際に842人の幼児に対し絵本の読み聞かせや絵本紹介を行った。また、父親を対象とした読み聞かせ講座や「パパ絵本プロジェクト」による読み聞かせの会を開催し延べ65人の親子が参加した。

・わが家の結いタイムの取組では、下伊那農業高校、飯田女子短期大学の協力を得ながら、街頭啓発活動を行うなど20回の啓発を行った。学校、PTAに対するアンケート結果では、「活動の柱にしている」「係を設けていきたい」「さらに推進していきたい」などの意見があり、取組みの重要性が浸透している。

< 青少年の健全育成 >

・青少年のSNS利用によるトラブルに対しては、小中学校、PTA、地域などで20回以上の研修会を開催し、教頭会、PTA会長会でも研修会を行い啓発に努めた。また、各種青少年・人権関係の団体との情報交換を行った。

< 地域活動の展開 >

・図書館及び分館では、小学生を対象とした読み聞かせの会を907回実施し、17、178人の親子が参加し読書を通した子どもたちの健全育成に結び付いた。

・公民館では学校・保護者等と連携した家庭教育講座を20地区で114回実施し、5,562人の親子が参加し、親の意識づくりや親子の良好な関係づくり等に結び付けた。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

< 親の意識づくり >

・2年目を迎える飯田女子短期大学と連携した「いいだ子育てカレッジ」を、昨年の反省を活かして改善を図り実施する。特に父親層へのアプローチに力を入れる。

・初めまして絵本事業では、家庭内で親子の読み聞かせの普及をより一層推進する。

・平成27年7月から開所する「こども家庭応援センターゆいきっず」において、育児に係る講座の実施や、「ゆいきっず広場」利用者へのアドバイス、更には相談を受けた保護者への対応等を通じて、家庭の育児力の向上を図る。

・わが家の結いタイムの取組では、ネットトラブル予防のために、市PTA連合会と協力して家庭でのルール作りに取り組む。

< 青少年の健全育成 >

・親や児童生徒を対象としたSNSの活用マナーなどを学ぶメディア・リテラシーの学習会の開催等、ネットトラブルに対して重点的に取り組む。

< 地域活動の展開 >

・20地区で実施する地域学習・地域活動にこれまでなかなか参加できない家庭への参加を得るために告知方法や声掛けなどの取組に力を入れる。

・小中連携・一貫教育の取組みの一環として、学校・地域・保護者が連携した通学合宿、小学校のクラブ活動への地域の支援、地域と学校教師がによる副教材作り、学校・地域・保護者による地域の子どもの状況に対する定期的な情報共有の会など、多彩な形で家庭教育を支える学校・地域・保護者のつながりが表れてきており、「飯田らしいコミュニティ・スクール」づくりに向けた取組を一層推進する。

・図書館では、分館の利用促進、地域と協働した事業に取り組む。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標

施策2-4

対象

子ども及びその家庭

意図

- ・基本的なしつけができる
- ・公共心、社会性が育つ
- ・親子のコミュニケーションが図られる

成果指標

基本的な生活習慣を
習得している子どもの割合

子どもとコミュニケーションが
取れている世帯の割合

地域行事・地域活動に
親子で参加している割合

親の意識づくり

青少年の健全育成

地域活動の展開

事務事業

家庭教育推進事業(社会教育)

家庭教育推進事業(公民館)

青少年育成センター運営事業

青少年健全育成事業

はじめまして絵本事業